

韓国の「標準保育課程」と保育実践に関する一考察

清水 陽子*・大久保 淳子**・アン・ソンファ***

要旨 近年、諸外国において、就学前教育における様々な教育改革が行われている。そのアプローチは国により違いがある。本研究は韓国における乳幼児教育・保育改革の動向を把握し、その実態について検討することを目的とする。具体的には、韓国の「標準保育課程」と日本の「保育所保育指針」の比較と、オリニジップの実践の検討をすることで、日韓共通の課題を提示し、基礎的な共同研究の土台を構築する。

キーワード ヌリ課程 就学前教育 韓国の保育実践

I はじめに

保育所、幼稚園における教育の基本理念や教育目標を示した保育カリキュラムは、具体的な保育を行うための基本となるものである。教育は計画的に行われるべきものであり、子ども一人一人を育てる教育の実践には確かな保育カリキュラムが不可欠である。大韓民国（以下、韓国と略す）では、生活主題を中心にした「テーマ中心型保育」と自由選択活動におけるコーナーの環境構成が保育実践の特徴といわれる。¹⁾

「韓国の就学前教育制度及び「年齢別ヌリ課程」と「幼稚園教育要領」の内容比較」(金・加藤・中橋 2017) は、日本が韓国の教育制度に影響を及ぼしてきた歴史的な経緯から、保育カリキュラムの類似性が高い点に着目し、日本

の「幼稚園教育要領」と3～5歳児を対象とした韓国の「年齢別ヌリ課程」の比較検討を試み、「年齢別ヌリ課程」は、時代的特性を取り入れていることを指摘している。

本稿では、韓国の「標準保育課程」と、日本の「保育所保育指針」との比較を通して、1、2歳児の保育カリキュラムの検討を試みたい。特に「自然探求」領域の具体的な保育内容および実践との関連に着目し、韓国の保育実践の特徴と日韓共通の保育の課題について考察することを研究の目的とする。

II 研究の方法および倫理的配慮

日韓比較の研究対象とするのは、女性家族部公示第2007-1号「標準保育課程の具体的保育内

*九州産業大学人間科学部子ども教育学科・教授

**福岡県立大学人間社会学部・准教授

***マルグンス オリニジップ・園長

表1 韓国の幼児教育・保育体制（2014年）

		教育（幼稚園）	保育（オリニジップ）
管轄部署		教育部	保健福祉部
法的根拠		幼児教育法（2005年1月20日施行）	乳幼児保育法（1991年制定）
対象		満3～5歳	0～5歳（放課後保育～満12歳）
機能		教育（主）と保育の機能	保護（主）と教育の機能
運営時間		基本課程（3～5時間＋放課後）	12時間（7：30～19：30）＋時間延長
教師資格		幼稚園教師1・2級（短期大学卒以上，学科制）	保育教師1・2・3級（高卒以上，単位制）
教師対児童比率		各市・道教育監が定める 【ソウル市の場合】 満3歳 1：18 満4歳 1：24 満5歳 1：28 混合年齢学級 1：23	乳幼児保育法施行規則第10条別表2 満0歳 1：3 満1歳 1：5 満2歳 1：7 満3歳 1：15 満4～5歳 1：20
施設基準	施設面積	40人以下：5×定員㎡ 41人以上：80+（3×定員）㎡	乳幼児1人当4.29㎡ （遊び場の面積除外）
	その他	体育場：160㎡（40人以下） 120+定員㎡（41人以上）	保育室：乳幼児1人当2.64㎡ 遊び場：乳幼児1人当3.5㎡（定員50人以上）
教育費・保育料	国公立	市道教育監が物価等を考慮して決定	政府が支援する保育単価範囲内で市道知事が決定
	私立	自律（行政指導実施）	市道知事が物価等を考慮して決定（乳幼児保育法第38条）
財政規模		約5兆3,042億ウォン	約9兆6,417億ウォン
政府支援教育費/保育料1人当たり月額（2014年基準）		満3～5歳 22万ウォン	満0歳 39万4,000ウォン 満1歳 34万7,000ウォン 満2歳 28万6,000ウォン 満3～5歳 22万ウォン
教育・保育内容		—	標準保育課程（満0～2歳）
		ヌリ課程（満3～5歳）	ヌリ課程（満3～5歳）

出典 育児政策研究所『幼児教育・保育統計 2014』2014年²⁾

容および教師指針」（2007年1月3日施行）及び日本の「保育所保育指針」（2018年4月1日施行）である。また、保育園に関するパンフレット等は、2018年8月25日に訪問したMオリニジップの園長より掲載についての許可を得ている。

Ⅲ 韓国の幼児教育・保育の体制の概要

韓国の幼児教育・保育の体制は、教育部が管轄する幼稚園と保健福祉部が管轄するオリニ

ジップ（子どもの家・日本の保育所に該当する）の二元体制で、日本の保育所と幼稚園の行政的な管轄と類似している。

幼稚園は「幼児教育法」に根拠を持ち、その種類は、国立幼稚園、公立幼稚園（地方自治体が設立・経営）、私立幼稚園（法人または個人が設立・経営）がある。全校種に渡って、3月始業、2月末終業である。オリニジップは「乳幼児保育法」に根拠を持ち、「保護者の委託を受けて乳幼児を保育する機関（第2条2項）」

と規定され、設置主体は国公立施設、私立施設に区分されている。以下の表は、韓国の幼稚園とオリニジップを比較しつつ、韓国の二元化された幼児教育・保育体制についてまとめたものである。(表1 韓国の幼児教育・保育体制(2014年)参照)

IV 韓国の「標準保育課程」と保育の実践

(1) 「標準保育課程」の特徴

韓国の幼児教育に関する国家的なガイドラインとして、「標準保育課程」と「3～5歳年齢別ヌリ課程」がある。「標準保育課程」は、オリニジップの0～5歳の乳幼児のために国家規模で保育目標と実践内容を提示し、0～1歳保育課程、2歳保育課程、3～5歳保育課程(ヌリ課程)で構成されている。

2013年3月に施行された「3～5歳児年齢別ヌリ課程」構成の方向性の特徴は、「第1に、秩序・配慮・協力などの基本生活習慣と人間性を育むことに重点を置いたこと、第2に自律性と創造性を養うことに重点を置き、バランスのとれた発達を援助すること、第3に人と自然を尊重し、自国の文化を理解することに重点を置いたこと、第4に3～5歳児の発達特性を考慮した年齢別の構成であること、第5に基本生活・身体運動、意志疎通(コミュニケーション)、社会関係、芸術経験、自然探究の6つの領域を中心とすること、第6に小学校の教育課程や「標準保育課程」との連携を考慮して構成した³⁾等の特徴がある。

「標準保育課程の具体的保育内容および教師指針」(2007)によると、「標準保育課程」の性格は乳幼児保育法施行規則第30条に規定されているもので、乳幼児の保育目的と目標を達成

するための国家基準の保育課程と位置づけられていて、保育施設で運営される保育内容のガイドラインが示されている。

日本で2017年に告示された「保育所保育指針」には「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」に、3つの「育みたい資質・能力」並びに10の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が記載された。これは、保育所・幼稚園・認定こども園などの施設においても、すべての子どもが質の高い幼児教育を受けることを願って作成されたことから、「年齢別ヌリ課程」と共通した目的があったと考える。

「標準保育課程に基づく乳児保育プログラム」(2013)では、0～2歳の乳児保育プログラムの特徴、0～2歳の乳児の発達の特性、乳児のためのプログラム計画・運営・評価、乳児のための日常生活、乳児のための適応期間、また家庭や地域社会との連携による運営への理解の内容で構成されている。

0～2歳の乳児保育プログラムは0、1、2歳児のための保育計画、日常生活、テーマ保育計画で構成されている。

「3～5歳児保育課程(ヌリ課程)に基づくプログラム」(2013)は、総論(保育プログラム、週間保育計画、午後の自由選択活動)、総論(教師用指導書)、テーマ別保育計画で構成されている。保健福祉部と教育科学技術部が共同開発した3歳11個、4歳12個、5歳12個のテーマに、保健福祉部が3つずつテーマを追加し、最終的にテーマ数は14個(3歳)、15個(4歳)、15個(5歳)となった。⁴⁾ことから、「標準保育課程」が施行された当初から、改定を通して教師用の指導書が整備され、それによってテーマ中心型保育やコーナーの環境構成が充実し、保育実践の質の向上が図られた経過が窺われた。

(2) Mオリニジップにみる保育の実際

ソウル市Y区立Mオリニジップは、U公園内に位置している区から委託された民営の保育施設である。Mオリニジップのめざす子ども像

は「愛されて自分を尊重できる子ども、考えて行動できる子ども、感謝の気持ちを持ち、のびのびとした子ども」である。また、「自然と共に、地域住民と共に調和した生活を送る」こと

表 2-1 【年齢別 特色プログラム】(Mオリニジップのパンフレットより抜粋)

年齢	特色プログラム		詳細内容
	内容	プログラム名	
満0歳	愛着プログラム	好き 好き	初めて親と離れる環境に、子どもたちが安心して安定的に適応できるよう援助する。
満1歳	五感を刺激するプログラム	なんだろう、なんだろうね	様々な材料を十分に調べることで統合的な感覚体験を援助する。
満2歳	五感を発達させるプログラム	嬉しい食べ物 感覚遊び	食べ物の色を決めて、決まった色の果物と野菜を育てた後、調べ活動を通して五感の発達、および正しい食習慣を形成できるよう援助する。
満3～5歳	テーマ毎のまとめ活動	スペシャルデイ	一つのテーマを終わらせる毎にテーマについての経験的知識の完成度を高め、教育的効果を最大化できるよう援助する。

【写真：ビニール傘等の生活用具を利用して子どもが雨を表現した1歳児クラス的环境構成】



表 2-2 【全園共通の特色プログラム】(Mオリニジップのパンフレットより抜粋)

森活動	人権教育
毎日U公園を散策する。 年齢に沿い、発達に適した森活動を進行する。 散策を通じた観察力の形成。 好奇心、探求心、感受性、自己肯定感等の形成。	乳幼児自身の人権について知る。 保護者と保育者の乳幼児の人権感受性形成。 乳幼児の参加する権利の拡大。 保護者と保育者の相互的人権尊重による満足度形成。

を重視し、「人権を基盤として保護者、子ども、保育者がひとつになる」ことを保育方針として掲げている。

園長が作成したMオリニジップのパンフレットから保育理念と経営理念を紹介したい。Mオリニジップの保育理念は、「ユニセフの子ども権利条約の基礎となった、行動する教育者ヤヌシュ・コルチャックの子どもの権利を尊重する思想を基に、乳幼児の個人差、個別性、個性を尊重する。経営理念は保育哲学を基に、保育者、保護者、地域社会、自然環境に対して、人権に配慮して運営する」⁵⁾ ことである。

筆者が観察した1歳児の保育室には、「自然探究」領域のコーナーがあり、Mオリニジップの「特色プログラム」の「五感を刺激する内容(1歳児)」のプログラム「なんだろう、なんだろうね」の目的を達成するために、様々な材料を十分に調べることで統合的な感覚体験をできるように、壁面や窓だけでなく空間を利用して環境構成がされていた。また、ビニール傘などの生活用品に自由に子どもがなぐり書きをしたり、身近な素材を組み合わせたりして雨を表現するなど、季節の自然現象をテーマにした作品の展示を観察することができた。(表2-1及び写真参照)

(3) 「標準保育課程」と「保育所保育指針」の比較

ここでは、日韓の保育カリキュラムにおける保育内容の領域「自然探究」(「標準保育課程」)と「環境」(「保育所保育指針」)の比較を試みたい(表3参照)。「標準保育課程」は、全6領域で構成されていて、各領域は年齢集団別に区分されている。各年齢別保育内容は、年齢・発達・個人差によって「水準」に分け区分している。

「自然探究」の領域は、「探求的態度」、「数学的探求」、「科学的探求」の三種類の内容カテゴリーで構成され、自然環境だけでなく「周辺の事物」が含まれる点は、「保育所保育指針」の「環境」と共通している点といえる。しかし「数」の知覚が表記されているのは「標準保育課程」の特徴である。

また、「保育所保育指針」の内容の表記は、「感覚の働きを豊かにする」、「～を楽しむ」等抽象的であるが、「標準保育課程」は「比較する」「知覚する」等具体的である。また、「保育所保育指針」には「生活や季節の行事」等社会事象や地域との関係も記述されているのが特徴である。

「自然探究」領域の保育の実例を、実地観察をしたMオリニジップから見てみたい。Mオリニジップでは、隣接しているU公園を子ども達が毎日散策し、「年齢に沿った森活動を行いながら子どもたちに自然への感受性を育むよう努め、健やかな身体発達、自己肯定感、生命を尊重する心、自然に対する畏敬の念を持てるようにし、自然と人間が調和できるように援助する」ことを保育の特徴としてパンフレットに記されている。これは、日本の「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「認定こども園教育保育要領」に記されている「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の「自然との関わり・生命の尊重」と共通した内容であると考えられる。

V まとめ—韓国の保育から学ぶこと—

Mオリニジップの保育方針や「森で遊ぼう」と全園共通特色プログラム「森活動」の説明をみると、「人は自然との調和なしに生きることはできません。当園の子どもたちもまた自然の中で成長し、自然の変化に好奇心を持ち、探求

表3 「自然探究」(標準保育課程) と「環境」(保育所保育指針) の比較

	「自然探究」 ⁶⁾ (「標準保育課程」の「満2歳未満」、「2歳」より抜粋)		「環境」 ⁷⁾ (「保育所保育指針 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」より抜粋)
領域の目標	周辺の事物と自然環境を知覚して好奇心を持って、持続的に探究する態度を身につけ、問題解決のための基礎能力を育てて、自然を愛する心を持つようにする。		周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
	満2歳未満	2歳	1歳以上3歳未満
年齢別のねらい	周辺の事物と自然環境について関心を持って見て、聞いて、触れて感じる等、多様な感覚と操作で知覚して繰り返し探索する。①周辺の事物と自然環境に関心を持つ。②感覚と操作を通じて数学的経験をjする。③周辺の事物と自然環境を感覚的に知覚して探索する。	周辺の事物と自然環境に対する好奇心を持って、多様な方法で探索して、日常生活の中で十分な数学的、科学的経験をjするようにする。①周辺の事物と自然環境に好奇心を持つ。②生活の中で数学的経験をjする。③周辺の事物と自然環境を多様な方法で探索する。	①身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。 ②様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 ③見る、聞く、触るなどの経験をj通して、感覚の働きを豊かにする。
内容	<p>【探求的態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の事物と環境に関心を持つ ・くり返して観察する <p>【数学的探求】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量を知覚する ・周辺空間を探索する ・比較する ・簡単な規則性を知覚する <p>【科学的探求】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の事物を知覚する ・周辺の生命体に関心を持つ ・自然現象を知覚する 	<p>【探求的態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の事物と環境に好奇心を持つ ・くり返し探索する ・問題解決に関心を持つ <p>【数学的探求】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量を認識する ・空間と図形を認識する ・比較及び順序を認識する ・簡単な規則性を認識する ・区分する <p>【科学的探求】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体と物質の特性を探索する ・周辺の生命体の外的特性を知る ・自然現象を認識する ・生活の中の道具と機械に関心を持つ 	<p>①安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。</p> <p>②玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。</p> <p>③身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。</p> <p>④自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。</p> <p>⑤身近な生き物に気付き、親しみをもつ。</p> <p>⑥近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。</p>

しながら自然と友だちになって暮らしています⁸⁾と記されている。これは、ESDユネスコ世界会議の提唱したESD(持続可能な開発のための教育)の「人間と自然との関係」の視点を反映している⁹⁾。また、前述した保育理念は「ユニセフの子ども権利条約の基礎となった、

行動する教育者ヤヌシュ・コルチャックの子どもの権利を尊重する思想を基に」と明記してあることから、世界的な保育の動向に着目しつつ、保育を実践しようとする姿勢がうかがわれる。(表2-2参照)

そして、「大人たちが子どもたちの人権を知

りそれを守る時、子ども達は他者にも自分自身と同じ人権を持つことを知り、守ろうとする態度を持つようになるだろう¹⁰⁾と期待できる教育成果を保護者に配布するパンフレットに記し、日常保育の写真も掲載して、保護者が「森活動」における遊びの重要性を理解できるように配慮している。

「保育所保育指針」の「第1章 総則」にも「(2)保育の目標 (ウ) 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てるとともに自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと」と記されており、保育の目標には日韓の共通性があることがわかる。しかしながら、虐待等の事件が増加している事も、日韓に共通した社会的な問題である。すべての子どもは独立した人格として、差別されることなく尊重されなければならないことを、社会に発信することは、日韓に共通する今後の課題と言えるであろう。

日本では乳幼児教育の方法として、「環境による教育」が重視されている。韓国での実地見学の結果、領域のねらいと内容に即した多様な素材を提供する環境構成をしている点で、日本の目指す方向性と同じだと言える。Mオリニジップの0～2歳児の保育室のコーナーには、領域のねらいに即した様々な教材がおかれ、保育のテーマ（生活単元）にそって環境構成が工夫されていた。このことは、豊かな遊び文化を子どもに伝え、子どもの主体性を尊重した保育を実施するために有効な援助である。そして、保育のテーマ（生活単元）から、プロジェクト活動を計画し、子どもの表現の成果を環境構成に活かす環境構成とプロジェクト活動は、韓国の保育カリキュラムの優れた点を表している。

韓国の「標準保育課程」とMオリニジップ

独自の1,2歳児の五感を発達させるプログラムや「森活動」、「人権教育」プログラム等の計画を総合的に考察すると、SDGs（「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会）を意識的に保育実践に取り入れていることが明らかになった。持続可能な社会を創るという現代社会の課題を反映した韓国の保育実践から示唆を得ることは大きいと考える。

引用文献

- 1) 『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか』 泉 千勢 編 2017 ミネルヴァ書房 P.313
- 2) 同上 P.306
- 3) 「日本保育学会九州地区第3回研究集会」資料P.10 国際シンポジウム（2018年11月11日）日本保育学会九州地区研究集会に講師として招聘したパク・ジンオク氏（ドンウォン大学）の資料。
- 4) 同上 pp.10～11
- 5) ソウル市ヨンサン区立マルダグンス オリニジップパンフレット
- 6) 女性家族部公示第2007-1号「標準保育課程の具体的な保育内容および教師指針」（2007年1月3日施行）
- 7) 「保育所保育指針」厚生労働省 2018年4月1日施行
- 8) ソウル市ヨンサン区立マルダグンス オリニジップパンフレット
- 9) 文部科学省 ユネスコ国内委員会 ユネスコとは (<http://www.mext.go.jp/unesco/003/001.htm>)
- 10) ソウル市ヨンサン区立マルダグンス オリニジップパンフレット

参考文献

- 「幼稚園教育課程の修正通知」教育人的資源部告示第2007-153号

『現代保育論』 亀谷和史 宍戸健夫 丹羽孝 かもがわ
出版 2006年

『韓国の保育・幼児教育と子育ての社会的支援』 勅使千
鶴編 新読書社 2007年

『韓国の保育・幼児教育と子育て支援の動向と課題』 勅
使千鶴編 新読書社 2008年

「一つのテーマに関連した主活動の実例」 中村智子 西
日本短期大学総合学術研究論集 2011年

「韓国の保育教材の特性と工夫」 中村智子 九州女子大
学紀要 第53号2号 2017年

「幼保小連携に係る教育課程の検討—保育内容「人間関
係」と小学校「生活科」「道徳」「特別活動」との関
連を中心に—」 余公裕次 大久保淳子 九州龍谷短
期大学紀要 第64号 2017年

「韓国の幼稚園における国家基準としてのテーマ中心型
教育」 田中敏明 カン・ミンジュン 貞方聖恵 松
井尚子 九州女子大学紀要第54号1号 2018年

「韓国の就学前教育制度及び「年齢別ヌリ課程」と「幼
稚園教育要領」の内容比較」 金正民・加藤あや子・
中橋美穂『エデュケア』第38号 2017年P.32

『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか』 泉 千勢編
ミネルヴァ書房 2017年